

ENFIN
LE FILM
DU COUPLE
DE L'ANNÉE
1969

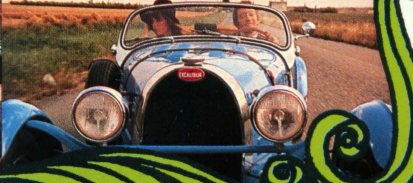
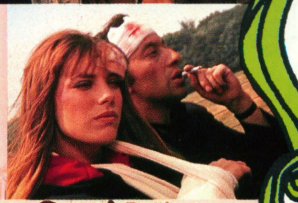
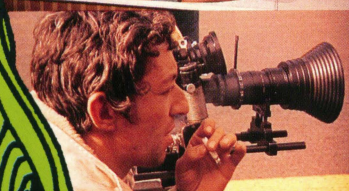
Slogan

Serge GAINSBOURG et Jane BIRKIN

un film de Pierre GRIMBLAT

scénario par Pierre GRIMBLAT et Melvin Van PEEBLES

musique par Serge GAINSBOURG



カップル
・オブ・
・シイヤー
1969

スローガン

セルジュ・ゲンスブール & ジェーン・バーキン主演

「コマ送りのくり返しで観た映画」
カヒミ・カリイ

「ゲンスブールとバーキンが出会った映画」
川勝正幸

「スローガン」がやっと公開される！

ここ数年、50～70年代の映画のリバイバルがたくさんされていて、かなりコアな感じのストーリーのものまで紹介されていたというのに、なぜ「スローガン」は公開されないんだろう？ とずっと不思議に思っていたのです。特に最近ではセルジュ・ゲンスブールがとても注目されてきていて、『スタン・ザ・フラッシュャー』まで公開されたというのに。

ゲンスブールが監督をした映画、『ジュ・テーム・モア・ノン・ブリュ』が、かなりの動員数を記録したとき、初め、すこしばかり思っていた。映画が作られた当時は評判もすごく悪かったときいていたし、ショートカットのジェーンはとってもキュートでPOPだったけれど、それ以外には、ストーリー的にもあまり一般受けする様な映画ではないと思っていたから。どちらかというと数は少ないけれどある人達にとっては、忘れられない大切な映画になる様な、カルト的な作品なんじゃないかと思っていたのです。それにくらべて「スローガン」はストーリーもおもしろいし、映像もファッションも、なにかにまでとてもPOPで、それにゲンスブールとジェーンが知り合うきっかけになった映画というオマケつき！

まったく私が初めて「スローガン」を観た時のこうふんといったら！ たいへんなものだったのです。もし誰かにお勧めの映画は？ ってきかれたとしたら、私は「ジュ・テーム・モア・ノン・ブリュ」や「スタン・ザ・フラッシュャー」よりも「スローガン」って答えることが多いでしょう。だから公開される事になって、すごくうれしい！

でも、こういう風に映画について何かを書いたりする時って大体、その作品の中で印象的だった数シーンについて話したりする事が多くなる訳だけれど、この「スローガン」に関しては、それがすこくむずかしいという事に気づいてしまった。

だって私はこの映画を初めてみたのはブートレグのビデオでだったのですが、もうほとんど、コマ送りのくり返し。こまかく気になってしまう所が多すぎてしまうのです。

セルジュ扮するファベルジェのコミューン、ジェーンのファッション（特に、ちょうど今年っぽい感じがするのですが……。映画会社の方がそこまでねらって選かておいたんだって……。ウフ。でも本当にちょうどいい感じのタイミングの様な気がします）。2人のアパルトマンのインテリア（さっきもビデオを観ていたら、このあいだ思い切ってN.Y.で買ったテーブル・セットと、2人がダイニングで使っているものが偶然同じであったことを発見してこうふんしてしまいました。なんだかやっぱり買ってよかったの）などなど……。

それから2人が初めて一緒にドライブするシーンなどは、もうほとんど演技じゃないふんいきだし、2人のファンとしては胸がキュンとしてしまうワンシーンです。「スローガン」は何度観ても楽しめる映画だと思います。

動員数がどんなことになってしまうか、すごく楽しみです！ 私ももちろんその1人です。

68年、20歳のジェーン・バーキンは右手に鞭のケイト、左手に腰のバスケットを持ち、着たきりのマイクローニで、パリへ着いた。売れっ子作曲家ジョン・バリ（007シリーズでおなじみ）との結婚生活が、2年で破局したのであった。68年、40歳のセルジュ・ゲンスブールは、バルドールとデュオで『ジュ・テーム・モア・ノン・ブリュ』を録音するが、スキャンダルを恐れた彼女は発売中止を求めた。これをきっかけに二人の仲も急速に冷えてしまう。スウィング・ロンドンからやって来た夫の愛を失うことを恐れ夜中も度々化粧直しに起きたほどのコンプレックス娘は、サン・ジェルマン・デ・プレ出身のく.B.を恋人にすることで初めて自分に自信を持てたコンプレックスおやじと「スローガン」で出会い、恋に落ちる。69年、バーキン版『ジュ・テーム〜』が発表され、映画が公開されると、二人は「今年最高のカップル」と呼ばれた。

飛ぶ鳥を落とす勢いのコミューン・フィルム演出家セルジュ・ファベルジェ（ゲンスブール）は、「活動する男のアフター・シェイプレーション」パラフルのアクションCMがウケて、ベネチアCM映画祭でグランプリを受賞する。そこでロンドンからバカンスに来ていた小娘エヴリン・ニコルソン（バーキン）に一目惚れ。ファベルジェには妻子が、エヴリンには3年越しの恋人がいたが、二人はパリで愛の生活を始める——これが「スローガン」の始まりなのだが、撮影の始まりは全然ラヴラヴじゃなかった。ゲンスブールは自分の相手役が、「ナック」と「欲望」にチョイでしか出ていない新人女優というのが不満で、バーキンをなにかとバグ。現場は超ヤバな雰囲気。困った監督は、「金曜日の夜、三人一緒にマキシムでシメでも食べよう」と仕切っておいて、当日、ドタキャン。なぜかあくる日以降、二人の撮影はスムーズに行くようになる。

元々「スローガン」は、ピエール・グランブラが自身の失恋の痛手を癒すために撮った映画なのであった（トリュフォーから「辛い恋を忘れるには、それをまんま描いて作品にするといいよ」というアドバイスを受けたとのこと）。ところが、映画のストーリーとゲンスブール&バーキンのラヴ・ストーリーは微妙にリンクしていき、監督は初期の目標を達成、フィルムには二人のトゥルーパー・ラヴが真空パックされ、一石二鳥の結果となった。

映画自体のテイストは、「ナック」と「欲望」を足して、シャンペンで割った感じ。これはピエール・グランブラがこれらの作品をバグったということではなく、彼自身もリチャード・レスター同様、TV出身という資質のせいが大きいだろう。よく見れば、「スローガン」は各シーンが90秒の長さである。また、グランブラは若い頃は詩人志望で、ボリス・ヴィアンに可愛がられ、ロジェ・ヴァティムとはマブダチだったという過去があり、全体を覆うシュールなセンスはサン・ジェルマン・デ・プレ仕込みであったのだ。

その他、不精艶があったりなかったり！ のおやじ完成型前のゲンスブール、パンチラも気にしない演技間隙のイケイケ！ なバーキン、プラスチック感覚キラキラ！ なインテリア、元祖「ロマンティック 96」的映画音楽……と見どころ満載の映画である。おっと、「映画でバーキンがいつも抱えている鞭のバスケットが私物」といういい話を忘れてた。



ピエール・グランブラ監督作品/脚本:ピエール・グランブラ&メルヴィン・ヴァン・ピーブルズ/音楽:セルジュ・ゲンスブール

製作:オルフェ・プロダクションズ&ハムスター・フィルムズ/1968年作品/1969年公開/フランス映画/1時間33分/カラー/協力:クラスアクト/配給:日本ヘラルド映画

Graphic Design: Sumio Tokemoto (Graphic Manipulator)

大ヒット上映中！

★当日料金[税込]:一般 1,800円/学生 1,500円★連日9:20p.m.より1回上映[最終11:05p.m.]◎12/31(日)~1/3(水)は休館日

シネセゾン 渋谷

渋谷道玄坂サ・プライム6F Tel:03(3770)1721